

20170611 「ローマ行きを願うパウロ」

目標：御言からパウロのビジョンを知り、それが実現されたことを教師から聞いたうえで、自分のビジョンについて考えるようになる。

聖書箇所：ローマ 15：13～33 時間：10分

暗誦聖句：「あなたがたに送られてそこへ行くことを、望んでいるのである。しかし今の場合、聖徒たちに仕えるために、わたしはエルサレムに行こうとしている。ローマ 15：24-25」

道具：ホワイトボード、ペン、地中海地図

対象者：中1×1 小6×1 小4×3 小3×2 小2×1 小1×2 未就園児×1

留意点：パウロの晩年を伝える聖書箇所が少ない一方、ムラトリ断片は重要な証言だが聖書ではない。あくまで聖書の記述からメッセージを構築するよう留意する。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	皆さんは将来何をしたいとか、こういう仕事に就きたいと考えていることはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師 ・牧師 ・わからない ・考えたことがない 	<p>いろいろ自由に挙げさせたい。最後に同じ問いをもう一度行い、変化が見られれば、本時を行った意味があったと評価できるだろう。</p>
課題探究	6分	<p>パウロさんにも（皆のような）ビジョンがありました。</p> <p>暗唱聖句の「そこへ」とは、スペインのことだと聖書の他の箇所に記されています。</p> <p>つまり、パウロさんのビジョンは、スペインまで伝道することだったのです。</p> <p>今、パウロさんはどこに手紙を書いていますか。</p> <p>ローマにさえまだいったことがないのに、スペインに行きたいといっているのです。</p> <p>そして更に、暗唱聖句に何と書いてありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ ・わからない 	<p>ビジョンという言葉は、必要に応じて説明したい。</p> <p>v 23・v 29による。イスパニアとは聖書の言だが、それは現在のスペインのことである。必要に応じて補足し、理解を助けたい。</p> <p>スペインが当時考えられていた世界の西端に位置することに触れると、彼がスペインといった意味がより深まるだろう。すなわち地の果てまで伝道したいのである。ローマ人への手紙なのだから、ローマに向けてである。発信地はコリントとされているが、特に必要がなければ触れなくてよい。</p> <p>地図で位置関係をしめし、彼のビジョンの大胆さを意識づけたい。</p> <p>エルサレムの位置を地図上に示し、全く違う方角にあることを掴ませる。</p> <p>エルサレム教会員を聖徒と呼んでいることと、このとき、エルサレム教会が困窮していたことに触れる。</p>
まとめ	2分	<p>パウロさんは、まず目の前にとんでもない大仕事があって、これから先もかなりの期間、身動きがとれないと思われたにもかかわらず、必ず神様はスペインにまで行かせてくれると信じていたのです。</p> <p>聖書には、使徒行伝にパウロがローマにいったことがかいてあります。</p> <p>また、聖書には書いていないのですが、他の確かな書物に、パウロはローマで投獄されて2年後、釈放されて、遂にスペインに行けましたと記されているのです。</p> <p>私たちは、パウロさんにどんなことを学ぶことができるのでしょうか。</p> <p>イエス様はあなたの願いを、生かして主の御業として成し遂げて下さいます。まず毎日祈ってみましょう。ビジョンがないなあと思う人は、ビジョンが与えられるように、まず毎日祈ってください。</p> <p>暗誦聖句</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず聖徒に仕えるためにエルサレムに行かなければならない。 	<p>私たちの身近な話で例えて、パウロの、神がビジョンを必ず実現して下さるとの確信の強さを際立たせたい。</p> <p>パウロはスペインでも伝道しただろうことを合わせ述べておくようにする。</p> <p>最初に挙げたビジョンをもう一度言わせて、それを主イエスに祈るようにながす。</p> <p>189号のテーマ「神の恵みに生かされる」からの反映。とんでもない願いに思えるものでも、毎日祈っているうちに必ず整えられて、主の御旨に沿うものにされていく。教師はその確信に立って祈りを促していきたい。</p>